

## 21年間を顧みて

静岡県・元日清紡労組組合長・清水 昭

日清紡績労働組合も平成18年4月31日で組合結成60周年を迎えました。結成60周年の記念事業として、組合本部の機関紙「清労」の縮刷版が発行されました。最近、暇をみて、思い出多き懐かしい記事を、時の過ぎるのを忘れ、隅から隅まで読んでおります。時の経つのは早いもので、今から40年前にもなります昭和38年に、組合のこと、西も東もわからないままに、本部役員になってからの21年間の全てが記載されている「清労」です。

特に、昭和44年に組合長になってからの15年間は、とても長かったようで、過ぎてしまえば短い期間でした。組合長になった頃（昭和44年）は、社会、経済情勢は極めて複雑にして厳しいものがありました。

とりわけ、私たちが働いていた繊維産業は、発展途上国の追い上げ、アメリカの繊維輸入規制問題、さらには、構造改善問題等、問題、課題が山積していました。しかし、繊維業界が今日のように壊滅的な状態になろうとは、誰しもが予想していなかったことです。

昭和46年頃から多くの同業他社で人員整理、工場閉鎖が相次いで行われ、まさに深刻な状況下に立たされました。

労働組合の基本、存在価値は「組合員の雇用を守る」ことに尽きる。少々賃金、ボーナスが高くても、労働組合の基本である雇用が守られなければ、何の価値もない。

雇用が守られ、労働条件を、より良いものにするには、何としても企業基盤がより確かなものであり、企業が清々と発展していかなければ、実現出来えない。この基本理念を大会挨拶、機関紙等を通じて、また、ありとあらゆる機会に言い続けてきました。幸いにも、私が組合を退任（昭和59年10月）まで雇用は完全に守られ、工場閉鎖も全くありませんでした。

私の組合役員任期中の最大の喜びは、これに尽きます。

21年の間には、言葉で言い尽くせない苦勞もありました。しかし、その苦勞も、いま、考えれば任期中、組合員の皆さんの雇用を守りきれたことで、全てが清算されました。

苦勞話でなく、良い思い出は、東京・中野の労働会館の土地が借地であったものを購入したこと。

また、日清紡績には保養所が無かったが、任期中に実現できたこと。

組合役員OB会を作って2年に1回集まって旧交を温めていること。

少々、自慢話が多くなりましたが、もう一つだけ披露しますと、定年を迎えた組合員の皆さんに、会費を本部負担でゼンセン シニア友の会入会の制度を作り、組合OB・OGの皆さんから大変喜ばれている。組合役員OB会の制度も、ゼンセン シニア友の会加入の制度も、今もって現役の皆さんが忠実に実行してくれており、嬉しく思うとともに感謝しております。

日清紡績も繊維事業再編の嵐に翻弄され、平成9年に岡崎工場を閉鎖、それ以降つぎ

つぎと閉鎖し、私の出身工場の浜松もついに閉鎖となり、ただ淋しさの一語に尽きます。

企業の事業再編に協力し、企業体質の強化がされ、そこに働く者の幸せの実現と、二度と人員整理、工場閉鎖など起きないように、頑張られるよう祈念してやみません。

以 上